

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200263		
法人名	医療法人 青鳳会		
事業所名	グループホームみま石井		
所在地	徳島県名西郡石井町字上浦524-9		
自己評価作成日	令和4年12月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホーム作りを実現するために、町役場分館の運営協力委員として参画し、利用者が地域社会と自然に交流できるよう取り組んでいます。一人ひとりが、たとえ身体機能が低下しても、たとえ認知症が進行しても、それぞれの持てる力を発揮して社会生活を継続できるよう家族や地域住民、他職種と連携して支援しています。新型コロナ禍において、地域イベントの中止や様々な活動の縮小がありますが、少しずつ日常生活を取り戻し、庭での日光浴、周辺の散歩やドライブの機会を増やし、屋内でのレクに趣向を凝らしています。また、ホームでの看取りについては、状態に応じて、本人や家族の意向をその都度確認しながら、指針に基づいた体制を整えています。看取り期においては、家族がいつでも時間を気にせず付き添えるように配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に飲食店や複数の神社がある、国道沿いに位置している。敷地内には、同一法人が運営する他サービス事業所が併設し、日ごろの支援や行事等の際に、連携・協力を図っている。隣町に、母体法人が運営する医療機関があり、月2回、往診や訪問看護を受けつつ、体調が急変した際には、24時間対応可能な体制を整備している。また、看取り支援も行なうなど、医療面の充実により、利用者・家族等の安心に繋げている。事業所は、地域との連携を大切に捉え、自治会に加入し、地域の行事等に参加・協力している。管理者は、地域の運営協力委員として参画し、地域の文化祭に利用者の作品を展示したり、近隣小学校に雑巾をプレゼントするなど、地域の一員として地域貢献にも積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った基本理念、職員心得を毎朝提唱することで意識付けができています。朝一番から声を揃えることで、チームケア実践の心構えにも効果を発揮している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を掲げている。玄関に理念を掲示したり、朝礼時に唱和したりして、職員間での共有化を図っている。また、新人職員研修の際にも、理念について説明し、日ごろの支援の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ禍のため、行事等は中止になったが、文化祭の展示は行われ、作品を出展したり、見に行くことで活動に参画できた。散歩中の声かけや挨拶などの交流は継続している。	事業所は、地域の文化祭に利用者の作品を展示したり、近隣小学校に手縫いの雑巾を届けたりして、地域と交流を図っている。地域の自治会にも加入している。感染症(コロナ等)の流行下においては、散歩の際に近隣住民と挨拶を交わすなど、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで利用者と共に地域活動をしてきたことで、関係性は継続している。地域に出向くと声がかかり、認知症の人の持てる力や日常生活について相談や質問、励ましなどを頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できなかったが、入居者状況や生活の様子等を書面にて役場に提出することで開催としている。委員の方にも個別に持参して報告し、励ましや意見を頂いており、関係を継続している。	事業所では、2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面会議を実施している。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。感染症の終息後、管理者は、多方面からの出席を得ることができるよう、関係者に働きかけることを検討している。	今後は、地域の関係者等、多方面からの出席を得ることで、より活発な意見・情報交換の場となるよう、出席者の検討・働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はホームの取り組みの姿勢を理解してくれており、運営推進会議等の定期的な状況報告や、相談や情報交換をし、相互協力の関係を築いている。	職員は、毎月、町の担当窓口を訪問し、事業所や利用者等の現状を報告している。困難事例等について相談し、助言を得ることもある。また、地域包括支援センターから、地域の高齢者の入所相談を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針にそって研修を行い、全職員が正しい知識を習得することで、身体拘束ゼロに取り組んでいる。委員会では日々のケアを検証し、利用者の心身の自由と安全を確保できるよう努めている。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、日ごろの支援の検証を行っている。定期的に、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害等について、周知・理解を図っている。日中は、玄関の解錠を心がけ、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的に開催している。研修では高齢者虐待防止法をもとに、身体拘束を含む虐待の徹底防止、不適切ケアの未然防止ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットには対象者がおらず、資料にて研修を行い、2階ユニットと情報交換する。必要時に適切に活用できるよう家族にも情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書について、専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防のため、日常生活や面会において不便を強いているが、来訪時の家族との会話から、また利用者の声にならない思いをも汲み取ることができるよう配慮している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等については、定期的な電話連絡や面会などの機会に、意見等を聞き取っている。出された意見について、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングでは自由に発言でき、管理者が職員の意見や提案を代表者に直接伝わるよう仲介する役目を担っている。また、法人においては個人評価票や意向調査で職員意見の聞き取りを行っている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。定期的開催する、職員会議やユニット会議等の機会にも、意見を聞き取っている。出された意見は、代表者等と共有し、必要に応じて、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。昨年からは準職員を廃し、全員正職員になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での研修会を開催し、知識の習得に努めている。また、職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。コロナ禍のため、オンラインの研修には参加しやすい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流を図り、話を聞くことで、自施設と比べ振り返る機会になり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにしている。今年は見学はできていないが、適宜情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現況において可能であれば、面談にて本人の話を傾聴し、思いを把握できるよう努めている。入居前の段階で交流することで、本人像を具体的にイメージし、安心してホーム生活を始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の段階で家族からよく話を聞き、思いを受け止め、不安を和らげるよう努めている。これからいっしょに本人を支えていく信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。まずはホームでの生活に慣れ、地域のかや他部署と連携し、暮らしが充実できるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いちばん身近にいるという関係性の中で、職員はお世話をするだけでなく、利用者の言葉に慰められたり癒されることも多い。このことを理解し、感謝しながら支え合って暮らすことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会ができにくい、電話やホーム便りで本人の様子を伝えたり、どうにかして互いの姿が確認できるように工夫し、疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やペットの訪問、車で自宅に寄って窓越しに家族と会ったり、誕生日に友達からケーキや花束が届くこともある。定期的に馴染んだ理髪店に行ったり、コロナの感染状況を見つつ馴染んだ場所に出かける。	事業所では、手紙や電話などを活用し、利用者が馴染みの関係性を継続できるよう支援している。家族等の協力を得て、ドライブに出かけることもある。また、読書が趣味の利用者と一緒に図書館へ出かけるなど、本人の生きがいや大切な関係が途切れることのないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や個性の違いから交流が持ちにくい人もいるが、職員が仲介することで、同じ空間で、孤立せず安心して過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関わりから知り得た本人の個性や好み、考え方を詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係性を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに興味を持ち、人間像を理解する努力をしている。本人の言葉・表情・行動などから思いを汲み取り、家族からも本人の人生や考え方の傾向を伺いながら、意向の把握に努め、最良策を検討し合っている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の希望や意向等の把握に努めている。家族や知人、ケアマネジャー等から生活歴を確認することもある。意思の表出が困難な場合は、表情や仕草などを確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力してもらい、利用者個々の生活歴やエピソード情報を収集し、本人の価値観や思考の傾向を理解し、これまでの生活を尊重したケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員みんなで書き込んで検討している。心身状態や一日の過ごし方などの現状を、一人の判断でなく多角的に捉えるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、目標の達成度をモニタリングし、本人と家族の意向や評価と合わせて、目標やケアの内容を検証する。状態の変動がある時や終末期には話し合い、介護計画の見直しを行う。介護計画は全職員に周知している。	事業所では、利用者や家族等の希望を踏まえた、介護計画書を作成している。毎月、モニタリングを行うとともに、3か月に1回、計画を見直している。また、必要に応じて、主治医等から助言を得るなど、本人の現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の具体的な記録は、ケア内容評価の指標になる。それをもとに月単位の暮らしの日記、モニタリングを個々に作成し、家族や職員で情報共有している。些細な気づきも話し合い、ケアに反映させる努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるので、その時々に必要なことは何かを判断し、何ができるかを考える。日課や業務の流れより利用者への対応が優先されることもあり、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、各イベント、子供の育成、地域振興に持てる力を発揮する努力をしてきた。今年は文化祭のみ開催され、出展した作品を観賞した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり、訪問診療が受けられる。必要な診療科目についても本人、家族の意向にそよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。		事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関とは、夜間や緊急時等の連絡体制も整備するなど、利用者の適切な医療受診に繋げている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		訪問看護と契約し、馴染みの看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制いつでも必要な指示を仰ぐことができ、検査や処置、また、終末期・看取り期の協働に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また、機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		終末期、看取りについての指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書にて行う。事業所のできることを、できないことを見極め、説明し、できる限り本人や家族の意向にそった対応ができるよう、かかりつけ医と共に協力して支援している。		事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族やかかりつけ医、関係機関と方針を共有しつつ、チームで支援に取り組んでいる。また、看取り支援の体制も整備している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		看護師による急変時対応や応急処置等の研修を定期的に行っている。安全委員会を開催して事例検討を行い、急変が予測される時は速やかに勉強会や訓練を行い、実践力を身に付けるよう教育、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		定期的に防災・水害避難訓練を行い、利用者も全員が避難し、避難所までの経路確認、移動訓練もいっしょに行う。住民参加は中止した。水や食料の備蓄に加えておむつや生活用品の備えもしている。		年2回、消防署の協力を得て、日中・夜間における火災や水害等を想定した避難訓練を実施している。夜間の避難については、地域の関係機関に声をかけるなど、協力体制を築いている。また、5日分の備蓄品を整備するとともに、消費期限等にあわせて炊き出し訓練も行っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保、個人情報の取扱いに関する研修を行っている。無意識に発する言葉遣いや声のトーンに特に気遣いをし、互いに注意し合うことで、配慮の足りない言動で尊厳を損ねないように徹底している。	事業所では、年1回、プライバシー保護や接遇マナー等に関する研修会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。職員は、声の大きさや言葉かけを工夫し、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを職員本意で解釈せず、意思を表せるような雰囲気作りをし、決して先走らず、待つことに努めている。人によっては選択肢の中から選べるようにしたり、拒否に対しても受け入れて善後策を考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や業務の流れはあるが、利用者の生活習慣やペースを優先して考えるようにしている。食事とお茶の時間は揃うが、その他の時間は気ままに過ごす方もいる。特に1階は「自由人」と称する利用者が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の習慣や希望にそって支援を心がけている。男性は髭剃り、女性の方は特に頭髪の乱れのないよう注意して整えている。馴染みの理髪店に送迎する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を外部委託することになり、朝食のみホームで作って提供している。盛り付けや片付けを手伝ってもらったり、ホームで調理する時は下準備も手伝ってもらう。手作りおやつをみんなでいっしょに作ることもある。	事業所では、朝食とおやつは手作りの食事を提供している。毎月、給食委員会による嗜好調査を行い、行事食やおやつに反映するなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。また、下準備や片付け等、利用者と一緒に行うことで、生きがいに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、脱水や低栄養に注意して健康管理している。給食になったため栄養価の管理がしやすくなった。嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ずつ洗面台で、口腔チェックをしながら、本人の能力に合わせて支援している。自分でできない人には、ガーゼやスポンジでぬぐっている。歯科検診や訪問診療も受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録検討し、トイレで排泄できるよう誘導している。パッド類も排泄に応じた適切な物を選び、心地よく生活できるよう支援している。必要に迫られて洗面台を模した排泄場所を居室に作った。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援に努めている。個別の状況にあわせて、声かけや誘導を行ったり、トイレの形式を変更したりするなど、排泄しやすいよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり運動量も少なく、軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、腹部マッサージなどで便秘予防に努めている。家族情報の整腸剤で解決した人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や習慣にできるだけそった入浴をしてもらっている。拒否される方にはその理由を考えたり羞恥心や気持ちに配慮して対応し、無理強いはいしない。代わりに足湯に浸かったりしてから誘導すると成功することもある。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。一人ひとりの状況にあわせて、二人介助や同性介助を行うなど、個別の心身状況に配慮している。また、希望に応じて好みのシャンプーを使用したり、入浴剤を使用したりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンは一人ひとり違うので、習慣を継続できるよう心がけている。眠れないことがあっても、重要な原因がなく支障がなければ眠ることに執着せず、お話をしたり、その時間を充実させるように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表や投薬時に職員同士で確認し合い、誤薬や飲み忘れのないよう管理している。利用者が何の病気でどんな薬を飲んでいるか、その効能と副作用を理解し、医師と相談して調整する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で行事や外出などの楽しみが激減しているが、散歩をしたり屋内での楽しみごとを考え、毎日のレクメニューを充実させた。嗜好品や差し入れ等も周りに配慮しながら楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策もあり、いつでもとはいかないが、感染状況や天候を見ての屋外での気分転換は、昨年よりは増えた。よく出かけるようになり、次はどこに行きたいとかのリクエストもある。地域の方と出会えることも楽しみの一つとなっている。	事業所では、気候のよい日には、利用者と一緒に近隣の散歩に出かけている。感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、家族等の協力を得て、初詣や花見に出かけるなど、できる限り外気を感じることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。パン屋の訪問販売等では自分で支払いをしていただくが、買い物の機会は多くなく、レク等で仮想の買い物を楽しめる機会を儲けたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持つ利用者は今はおらず、希望に応じて職員が電話の取次ぎをしたり、暑中見舞いや年賀状をはじめ手紙やメッセージカードのやり取りの支援をしている。リモート通信もできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活感がある雰囲気作りをし、コロナ感染予防のため、特に換気と消毒に重点を置いている。テーブルはビニールで仕切られているため、無機質にならないよう、花を飾ったり、季節感のある演出を工夫している。	共用空間は日当たりがよく、明るい。壁面には、利用者の作品や季節の花を飾るなど、季節を感じるができるようにしている。テレビの近くにソファを設置したり、畳のスペースを設けたりして、一人ひとりが居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の和室があり、一人でくつろぐことも気の合う利用者とお喋りして過ごすこともできる。ウッドデッキでひなたぼっこもできる環境にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には本人の望む物や愛用品を持ち込んでそれぞれに居心地と使い勝手のよい部屋作りに努めている。職員手作りのフェイク洗面台を居室に置き、ポータブルトイレとして使う方もいる。	居室には、家具や本、仏壇など、利用者にとって馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。家具の配置等を工夫し、安全面に配慮するなど、利用者が安心して過ごすことができる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に合わせて家具やベッドの配置や向きを変える。家具に手をつき支えにすることもあり、寄りかかると危険な脆弱な物は置かないようにしている。表示はわかり易く、間違いを招かない工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で毎朝提唱することで意識付けをしている。理念や心得を作った経緯や背景、意味を理解し、日々のケアに役立てている。いつでも聞かれても、職員は理念を述べるができる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で行事等が中止になったが、散歩中の声かけや挨拶など交流は継続している。地域行事は文化祭のみ開催され、作品を出品し、少人数で観賞した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで利用者と共に地域活動をしてきたことで、関係性は継続している。地域に出向くと声がかかり、認知症の人の持てる力や日常生活について相談や質問、励ましなどを頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できなかったが、入居者状況や生活の様子等を書面にて役場に提出することで開催としている。委員の方にも個別に持参して報告し、励ましや意見を頂いており、関係を継続している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者は、運営推進会議の書面での報告だけでなく、いろいろな話の中で、わからなかったり不安がある時は丁寧に教えてくれ、いっしょに考えてくれる。事業所も情報提供などの協力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は指針やマニュアルに基づいて行い、チェックシート等で身体拘束にあたるような事例、言葉かけはなかったかを振り返ることで、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、全職員対象に身体拘束を含む虐待防止、不適切ケアを未然に防ぐための研修を行っている。言葉かけやちょっとした振る舞いも適切であるか互いに注意合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度、ユニットに成年後見制度を利用する方の入居があり、より身近に知識を得ることができている。研修で学んだ正しい知識をもって支援したい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書について、専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を記録し、職員間で話し合っ対応している。要望や意見を出しやすいよう、会話を大切にしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、ユニット会議を開催し、個々の意見を発言しやすい環境作りに努めている。管理者はユニットの声を全体に、全体の声を代表者に伝え、職場環境の改善、サービスの質の向上に取り組んでいる。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。昨年から準職員を廃し、全員正職員になった。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での研修会を開催し、知識の習得に努めている。また、職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。コロナ禍のため、オンラインの研修には参加しやすい。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流を図り、話を聞くことで、自施設と比べ振り返る機会になり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにしている。今年は見学はできていないが、適宜情報交換している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現況において可能であれば、面談にて本人の話を傾聴し、思いを把握できるよう努めている。入居前の段階で交流することで、本人像を具体的にイメージし、安心してホーム生活を始められるように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話をすることで、入居を考えるにいたった経緯や思いを受け止め、労い、信頼関係を築く努力をしている。早い段階で以前からの知り合いのような関係になれることも多い。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。地域の力や他部署と連携し、必要なサービスが提供できるよう工夫している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で笑ったり怒ったりしながら助け合って生活できるような関わりを心がけている。豊富な知識を教わったり、おおらかさに励まされることも多い。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができにくい状況の中でも、密に連絡を取り、家族の関心や絆が途切れないように努めている。利用者の様子を伝えたり、相談をして何らかの関わりを持ってもらうことで連携している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策のため、馴染みの人の訪問も減ってはいるが、ご兄弟や友人の訪問はたまにあった。忘れないよう、知人や馴染みの場所、地域のことを話題にして回想してもらっている。馴染んだ場所にはお連れした。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間が多く、認知症が進行しても、トラブルが多くなっても、みんなで怒ったり笑ったりしながらいつも一緒にいる。そうすることで互いに気にかけて、馴染みの関係ができています。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関わりから知り得た本人の個性や好み、考え方などを詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係を継続できている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いをそのまま口にできない人も多いが、生活を共にする人として一人ひとりに興味を持ち、人間像や思いを知るために努力している。どうすることが本人の思いにかなうのか話し合っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力してもらい、利用者個々の生活歴やエピソード情報を収集し、本人の価値観を尊重したケアを心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員みんなで書き込んで検討している。一人の判断でなく、多角的に捉えることができる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、目標の達成度や現状をモニタリングし、家族の評価や意向と合わせて目標やサービス内容について話し合っている。本人の心身の状態や思いの変化に応じて介護計画も変更している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて月単位の生活記録を一日一行日記にし、家族に報告している。担当者だけでなく職員全員の記録が反映され、細かな気づきが共有される。計画の見直しにも役立つ。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるので、その時々に必要なことは何かを判断し、できるかぎりの手を尽くしている。ニーズに応じて、必要なことを必要な時に提供できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、各イベント、子供の育成、地域振興に持てる力を発揮する努力をしてきた。今年は文化祭のみ開催され、出展した作品を観賞した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり、訪問診療が受けられる。必要な診療科目についても本人、家族の意向にそよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、馴染みの看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制いつでも必要な指示を仰ぐことができ、検査や処置、また、終末期・看取り期の協働に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また、機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りについての指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書にて行う。事業所のできることを、できないことを見極め、説明し、できる限り本人や家族の意向にそった対応ができるよう、かかりつけ医と共に協力して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、定期的に研修を行っている。急変が予測される時や発生事例があった時は速やかに勉強会や訓練を行い、実践力を身に付けるよう教育、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災・水害避難訓練を行い、利用者も全員が避難し、避難所までの経路確認、移動訓練もいっしょに行う。住民参加は中止した。水や食料の備蓄に加えておむつや生活用品の備えもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損ねないような声かけに配慮している。全職員でプライバシーの確保について話し合い、恥ずかしい思いをさせたり不適切ケアのないよう取り組んでいる。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを職員主導で解釈して行なうのではなく、自己決定を待つことができるよう心がけている。利用者の言葉だけでなく、表情や仕草からも思いを読み取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあっても、利用者の年齢も高くなっているため、体調や気分、希望にあわせて優先すべきことを考えて組み立てている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできにくくても、皆さんおしゃれや綺麗にすることは大好きなので、身だしなみを整え、頭髪の乱れがなく、いつも清潔感のある装いに配慮している。訪問美容室を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が給食形態になり、調理の手伝いの機会はなくなったが、トレイ拭き等片付けを手伝ってもらっている。おやつや昼食を作る日を決め、いっしょに調理を行う。味見と称したつまみ食いも可。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、脱水や低栄養に注意して健康管理している。給食になったため栄養価の管理がしやすくなった。嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態で提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、歯磨きをしてもらっている。能力や口腔内の状態に合わせて、介助したり、スポンジで丁寧に仕上げをする。必要に応じて訪問歯科治療や歯科検診を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を表に記録し、排泄パターンの把握に努め、さりげなく誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は安眠のため、質の良いオムツを使用する方もいる。パッド類の検討は何度も行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり運動量も少なく、軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、運動やマッサージなどで便秘予防に努めている。便秘の作用のある薬は医師と相談して調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に3回以上は入浴して頂いている。一連の入浴介助は一人の職員で行い、羞恥心に配慮している。入りたくない気持ちも受け止め、時間をおいたり介助者を変えたりして対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが、習慣を継続できるよう柔軟に対応している。眠れないことがあれば、心身の状態や日中の様子を考慮し、健康上の危険がなければ、眠くなるまでお相手をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に日付と色分けをし、投薬管理表により、誤薬や飲み忘れのないよう管理している。処方薬の追加や変更のあった時は、医師に状態の経過を報告することで投薬調整に役立っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍でも外出などの楽しみは少し回復している。散歩や外気浴を増やし、屋内での楽しみごとも考え、実践している。嗜好品や差し入れ等も周りに配慮しながら楽しんでもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	たとえ重度になっても積極的に出かけることを、最大限の努力で実現してきた。新型コロナが拡大してからは少人数での散歩や密を避けての外出になったが、それでも少しずつ屋外に出る機会を増やし、花を追いかけのドライブを楽しんだ。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。今年はいっしょに買い物に行くことはできなかったが、馴染みのパン屋さんの訪問販売で自分で購入することはあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		必要に応じて電話の取次ぎや、伝達役をする。なかには自分で携帯電話を持つ方もいるが、かけ間違いもあるので、本人といっしょに履歴を確認する。コロナ禍でリモート通話が普及した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		ホールの壁や廊下には作品や行事の写真などを貼ったり、共用トイレや浴室の清潔と防臭、今年はコロナもあり換気を徹底している。2階は日当たりがよく気持ちが良いが、季節によっては日差しが不快にならないよう空間の演出に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや畳の和室があり、自由に過ごすことができるが、いちばん人気があるのは、EV前フロアの窓辺で、椅子に腰かけると眺めもよく、とっておきの場所となっている。一人で、複数で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室には本人の好む物を置いたり、使い慣れた家具を持ち込んだりして自分流に配慮している。デスクの本棚にお気に入りの小説を並べたり、仏壇を置いている人もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		本人の能力に合わせて家具やベッドの配置や向きを変え、寄りかかると危険な脆弱な物は置かないようにしている。動線を考えた座席配置にし、安全で使い勝手のよい環境作りを心がけている。		